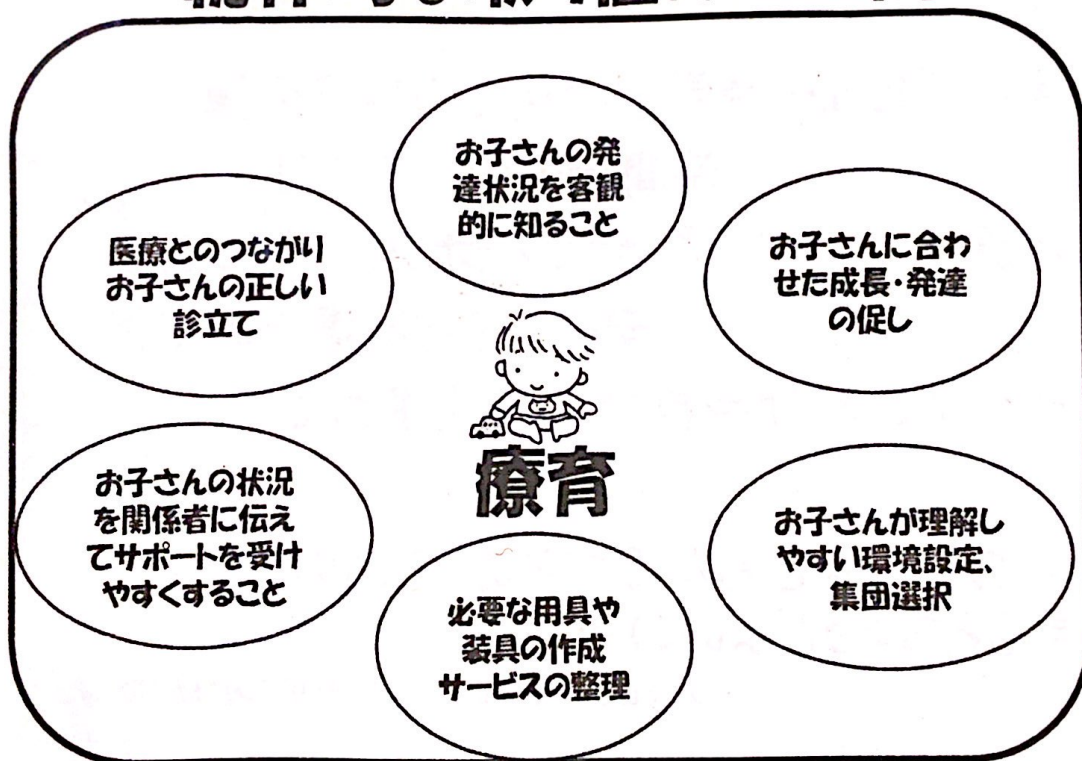
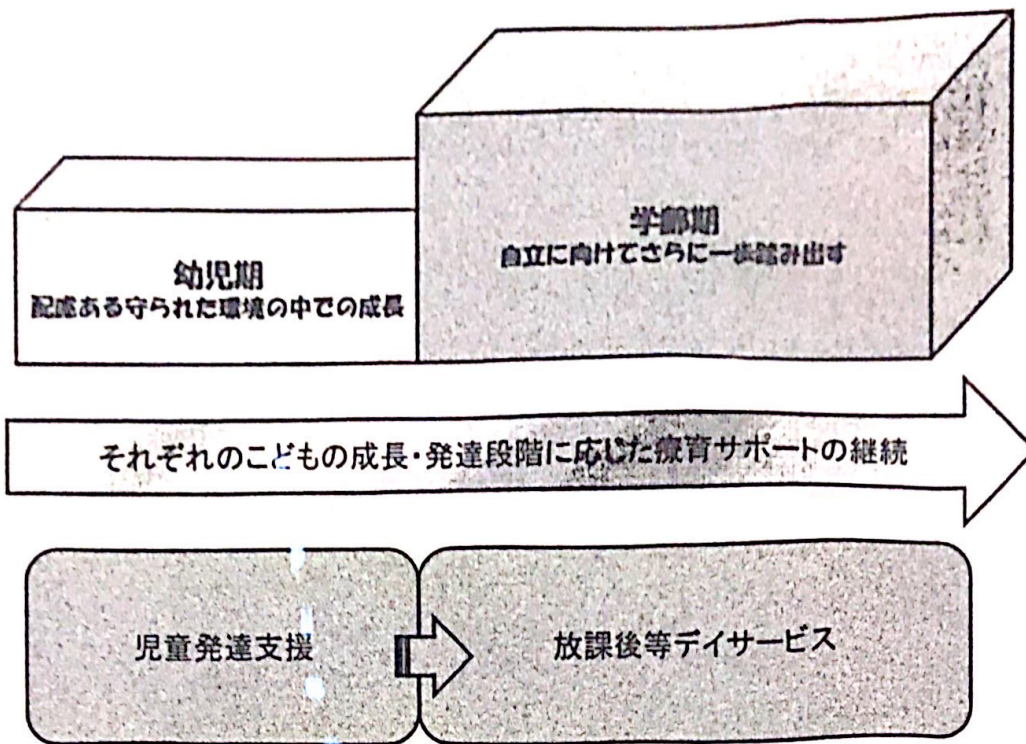


療育ってなあに？

～幼児期から学齢期へ～

総体的な取り組みの一例





学齢期ってどんな時期？

- 学校デビュー⇒学習の場での自己発揮
時間枠の中での生活
- 放課後の過ごし方⇒オンとオフのバランス
安心できる居場所の確保
- やがて思春期⇒自分らしさを求めて

* どの部分をどんな場でどのくらいの量サポートするとちょうどよいのか

イラスト出典:『かわいいイラストデザイン』ひかりのくに

長期目標は人への信頼と自分への信頼の獲得

こどものころの発達の一例

プラス感情を得るために必要な体験

望ましいプラス感情

抱きがちなマイナス感情

こころの発達

人への信頼と自分への信頼を持って社会へ！

得意不得意のある自分と上手につきあっていく
人と関わりながら自分に合った方向性をみつける

ぼくは(私は)だめだ
社会が悪い

社会の中の自分をイメージする

高校生～

自分で乗り越えられたという体験
他者からがんばっている自分を認められ見守ってもらえた体験
仲間を得る体験

ぼく(わたし)には苦なこと「も」ある
自分にあった工夫をする取り組みやすくなる
気の合う友人がいる

どうせぼくには(私には)できない
だれもわかってくれない

自分を客観視しはじめる
自分とはどういうところがある人か意識し始める

小学校高学年～
中学生

理解してもらえた体験
工夫することを教えてもらった体験
仲間意識を持つ体験

少し助けてもらえとできる
工夫を覚えてもらえとできる
苦手なこともあるが集団の一員として大事にされている
(集団への所属感)

あの子ではできてぼくは(私は)できない

集団の中で自分を意識する

小学校低学年～
中学年

認めてもらった体験
わかってもらえた体験
うまくいかない不安に寄り添ってもらえた体験
達成できたと感じる体験

認められてうれしい
ぼく(わたし)にもできる
安心

いやだ
できない

大人との関わりの中で自分を感じ
る

幼児期